

14. 特別史跡

いちじょうだにあさくらし いせき

一乗谷朝倉氏遺跡 (147次)

所在地：福井市城戸ノ内町

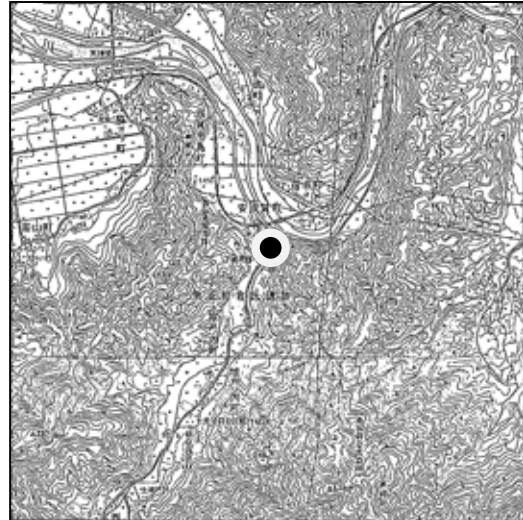
調査原因：一乗谷川河川改修事業に伴う発掘調査

調査期間：平成27年6月24日～7月13日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：33 m²

時代：戦国



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 平成27年度は下城戸跡対岸の一乗谷川右岸における調査範囲を確定するため、試掘調査を実施しました。この地点では平成25年度の試掘調査(142次調査)で石列を検出しており、昨年度の146次調査区で検出した旧河川兩岸の護岸石積み遺構と一連のものと考えられました。ただし、当地点では旧河川右岸にあたる遺構しか確認しておらず、左岸の遺構の有無は不明でした。そのため、本調査地予定地の西側を含む3箇所を試掘調査を実施しました(1～3トレンチ)。また、146次調査で検出した右岸側護岸石積み遺構に付属する遺構確認もあわせて行いました(4～6トレンチ)。

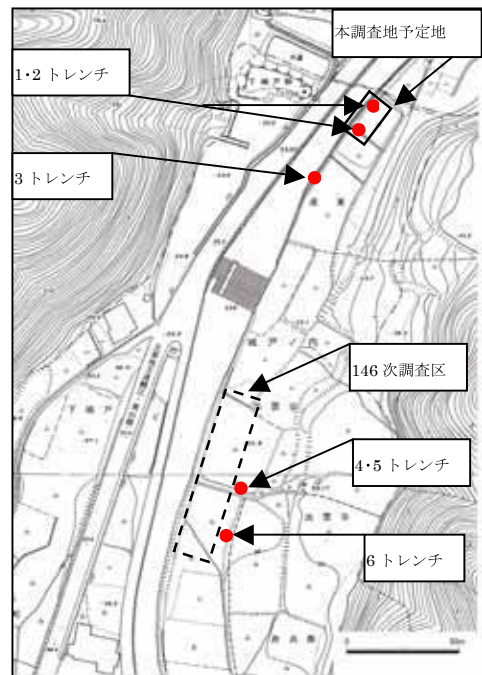
遺構 1～3トレンチでは遺構が確認できず、146次調査より北側において左岸側の石積み遺構は遺存しないものと考えられます。

4トレンチでは、南壁沿いに東西方向の石列、4・5トレンチ間の東壁断面では土塁状の盛土を確認しました。

5トレンチでは東西2.0m幅の礫面と礫面東端の落ち込みを確認しており、土塁と推定されます。146次発掘調査区とあわせると、土塁幅は東西4.0mあります。なお、4トレンチでも同様の落ち込みを確認しています。また、この礫面上に東西方向の石列溝を確認し、屋敷地から土塁内を通過して旧一乗谷川に排水する暗渠と考えられます。

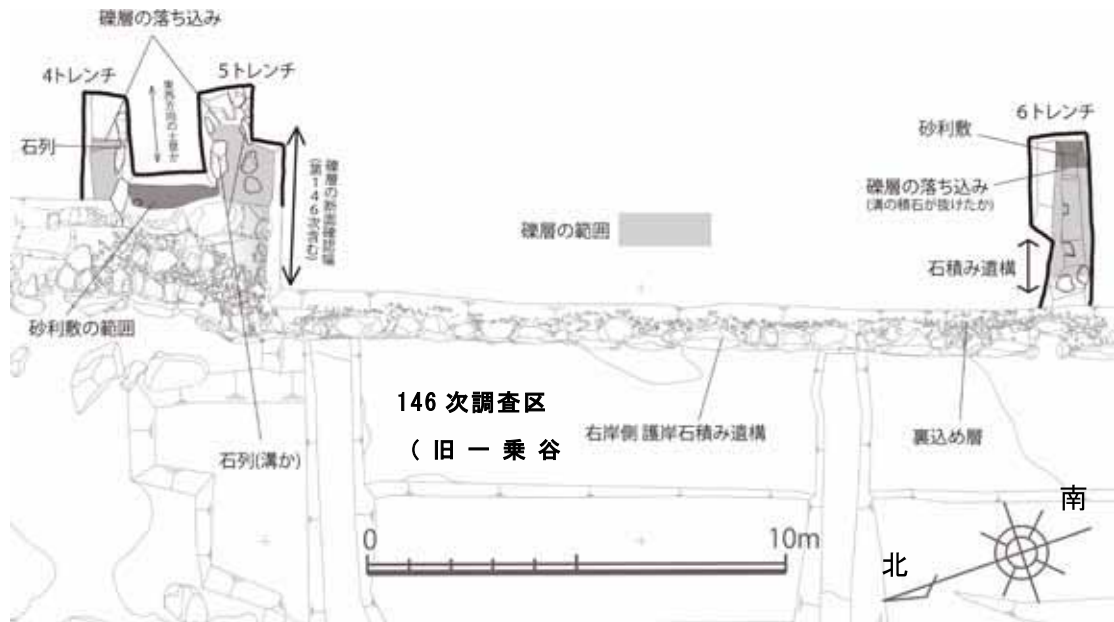
6トレンチでも、土塁状の盛土を確認しました。これは5トレンチの南北土塁の延長と考えられます。確認された土塁天端から一乗谷川河床までの高さは2.0mでした。

遺物 1～3トレンチからは遺物は出土しませんでした。5・6トレンチの土塁の礫面からは戦国時代の越前焼や土師質皿などを確認しています。



調査区位置図

まとめ 4～6 トレンチでは、右岸側護岸石積み遺構に沿う土塁を確認しました。その役割として、旧一乗谷川の越水を防ぐ堤防が一つあげられます。また、4・5 トレンチでは、それに直交して山側に伸びる土塁の存在も想定され、地籍図で出雲谷と斉兵衛の境界にあたることから、地割を示す土塁の可能性がります。(松本泰典)



4～6 トレンチ調査区位置図



写真1 4・5 トレンチ (北西から)



写真2 5 トレンチの礫面 (北東から)



写真3 6 トレンチ (西から)



写真4 6 トレンチの断面 (右に土塁、北から)